

定期考査「選択」受験

対象生徒

定期考査を何らかの理由で教室で受けられない生徒／全教科受けられない生徒

ねらい

生徒の実態に合わせて定期考査を受ける場所、教科を選択できる

アクション説明

定期考査を教室外で受験したい生徒に対し、受験教科や場所を選択可能とする。本校は教室外受験のために1つの教室を準備しており、これにより、個々の実態に応じた受験環境を提供する。

得られる効果

教室での一斉受験に困難を抱える生徒に対し、別室という選択肢を提供することで、過度な緊張や不安を和らげることができる。受験できる教科や場所を自分で選ぶことで、「全く受けられない」状態を回避し、学習へのモチベーションを維持できる。

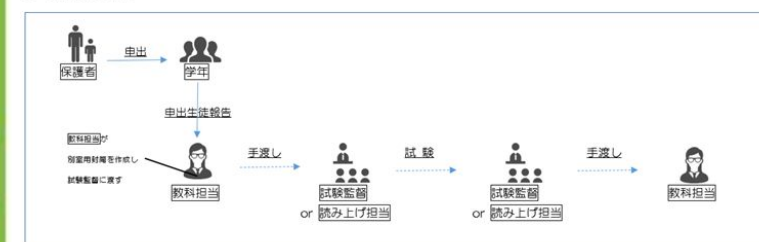
実践方法

- ・学年主任が担任より申出をした生徒を把握する。
- ・別室受験者共有データに入力する。
- ・試験出題者はデータから別室受験者数分の問題と解答用紙を準備する。
- ・別室受験試験監督者はデータを基に出欠確認を行う。

実施のポイント

全ての学年の生徒が別室受験を行うため、誰がいつ受験するかを把握できるようデジタル化を図り、さらに1日同じ教員が試験監督を行う体制を構築する。オンラインで授業を受けている生徒が定期考査の時だけ登校して受験した事例がある。

■ 回収までの流れ



生活アンケートの活用

対象生徒

不安を抱えている生徒／いじめを受けている生徒／直接大人へ訴えるのが難しい生徒

ねらい

生徒の不安や悩みの早期発見・早期対応

アクション説明

生徒の生活面での不安やいじめ等の深刻な悩みを定期的に把握する。これを全教員で共有できる仕組みを構築し、早期かつ組織的な生徒支援につなげる。

実践方法

・①いじめ ②人間関係 ③SNSやChromebookの使い方 ④悩んでいることについてアンケートをとり、現在の生活の状況を把握し、対応する。

得られる効果

普段直接相談できないことを把握・対応することで、生徒が安心安全な学校生活を送ることができる。全校生徒の困り感をスプレッドシートで教員全員に共有できる。

実施のポイント

必ず教員がいる前で学年ごとに折を見て一斉に実施する。訴えがあった場合は、些細な事案でも担任・学年を中心に早期に対応する。



令和7年度 学校生活アンケート

第1回（4月実施）

＊必須の質問です

クラスを選んでください＊

選択

出席番号を選んでください＊

選択

[生活アンケート](#)



長期休業中の心境アンケート活用

対象生徒

長期休み明けで登校に不安を感じている生徒

ねらい

新学期に向けた生徒の不安や悩みの早期発見・早期対応

アクション説明

長期休業明けの登校不安を事前に把握し、全教員で情報を共有する仕組みを構築する。その上で、不安を抱える生徒への個別支援体制を構築する。

実践方法

- ・①新学期を迎える心境 ②不安の原因 ③相談方法 等のアンケートをとり、生徒の心境を把握し、対応する。

得られる効果

長期休業明けの登校しぶり・不登校・自殺等を未然に防ぎ、生徒が新学期の始めから安心安全な学校生活を送ることができる。全校生徒の不安感をスプレッドシートで教員全員に共有できる。

実施のポイント

各学期の始業式2週間前くらいに配信をし、心境を把握する。「少し不安」または「とても不安」と感じている生徒は、担任が電話またはChromebook上のメッセージ機能で連絡をとり、相談にのる。

【8/24(日)まで】夏休みの生活アンケート

板三中生の皆さん、楽しい夏休みをお過ごしでしょうか。
今回はChromeBookを使用し、以下のアンケートを実施します。
8/24（日）までにご回答ください。皆さんのご協力をお願いいたします。
板橋第三中学校

* 必須の質問です

メール*

☐ 返信に表示するメールアドレスとして 203t18munakata.naoki@ita.ed.jp を記録する

次へ 1/3 ページ フォームをクリア

[長期休業中の心境アンケート](#)



b-1
状況
把握

WEB QUの活用

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒

学級集団の中で課題がある生徒／いじめを受けている生徒／不適応傾向のある生徒

ねらい

生徒の特性等を把握し学年・学級経営や生徒対応に活かし安心安全な生活につなげる

アクション説明

QUアンケート結果を全教員で共有する場を設ける。生徒の学級満足度や意欲の実態を客観的に把握し、これを基に生徒の実態に合った教育活動を行う。

実践方法

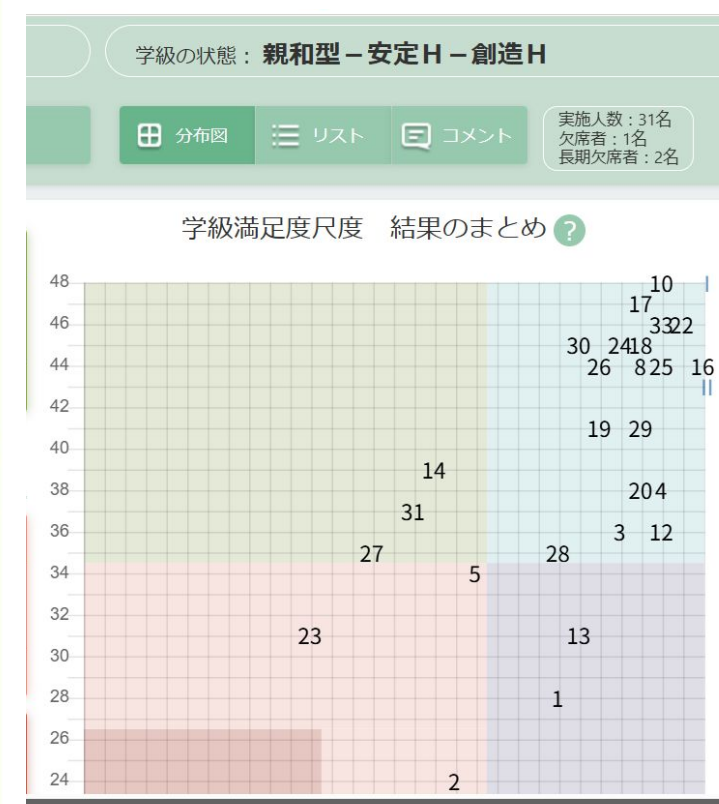
・校内研修会の時間で各学年・クラスにおいてWEB QUの結果を分析し、生徒理解を深め、今後の対応を話し合う。

得られる効果

教員による分析シートを活用したフィードバックにより生徒理解を深めるとともに、生徒に個人シートを返却し自己理解を深めることで、生徒の特性を踏まえた学級・生徒対応につながり、安心安全な学校生活を送ることができる。

実施のポイント

各クラスの学級の状態を分析し、要支援群・いじめを受けている可能性が高い生徒を把握し、早期に対応にあたる。



ほうれんそうフォームの活用

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒

学校生活の中で直接伝えづらい不安や悩みを抱えている生徒

ねらい

生徒の学校生活の中で直接伝えづらい不安や悩みの早期発見・早期対応

アクション説明

生徒が直接伝えづらいことについて、オンラインで「報告・連絡・相談」を行うことができる。

実践方法

・①伝えたい種類 ②詳細 ③相談する先生等の不安や悩みで直接伝えづらいことをオンラインで報告・連絡・相談し、生徒の実態を把握・対応する。

得られる効果

不安や悩みで直接伝えづらいことをオンラインで報告・連絡・相談し、把握・対応することで、安心安全な学校生活を送ることができる。全校生徒の困り感をスプレッドシートで教員全員に共有できる。

実施のポイント

不安や悩みがあった際は、随時オンライン上で報告・連絡・相談してよいことを伝えておく。誰に相談するかを選択できるようにする。相談があった際は、指定された先生を中心に対応する。



板三「報連相（ほうれんそう）」フォーム

こちらは板三中の生徒専用オンライン「報告・連絡・相談」窓口です。Chromebookから、いつでも書き込むことができます。（ただし、欠席等の連絡については専用フォームにて保護者が連絡します。）

203t18munakata.naoki@ita.ed.jp アカウントを切り替える

* 必須の質問です

メール *

☐ 返信に表示するメールアドレスとして 203t18munakata.naoki@ita.ed.jp を記録する

①あなたのクラスは？ *

選択

ほうれんそうフォーム



ココカラ相談フォームの活用

対象生徒 心と体の悩みや不安を抱えている生徒

ねらい 学校生活の中で直接伝えづらい心と体の悩みや不安、困りごとの早期発見・早期対応

アクション説明

生徒が直接伝えづらい、心と体の悩みや不安、困りごとをオンラインで相談できるようにする。

実践方法

・①心と体の悩みの種類 ②詳細 ③相談する先生 等の不安や悩みで直接伝えづらいことをオンラインで相談し、生徒の実態を把握・対応する。

得られる効果

不安や悩みで直接伝えづらいことをオンラインで相談し、把握・対応することで、安心安全な学校生活を送ることができる。全校生徒の困り感をスプレッドシートで教員全員に共有できる。

実施のポイント

ほうれんそうフォームと差別化を図る。誰に相談できるかを選択できるようにする。相談があった際は、指定された先生を中心に対応する。悩みの種類も性に関することなど、発達段階的に言語化しにくいものも選択肢として設けている。

ココカラ相談フォーム（ココロとカラダの相談フォーム）

このフォームは、あなたの心と体の悩みや不安、困りごとに寄り添うためのフォームです。
あなたの悩みや不安を、ココカラ（このフォームから）少しでも解消していきましょう。

* 必須の質問です

メール*

☐ 返信に表示するメールアドレスとして 203t18munakata.naoki@ita.ed.jp を記録する

1. あなたの学年を教えてください*

[ココカラ相談フォーム](#)



d-1
多様性
(言語対応)

ことバルの活用

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒

日本語の習得が不十分で学校生活や学習に困難を示している生徒

ねらい

日本語の習得が不十分で学校生活に困難を示す生徒が、安心して学校生活を送れる

アクション説明

日本語の習得が不十分な生徒が、授業や面談時にことバル(タブレット翻訳機)を使用する。

実践方法

・授業や面談時にことバル(タブレット翻訳機)を使用する。

得られる効果

ことバル(タブレット翻訳機)を使用し、授業や面談時に内容を理解し意思疎通を行うことで、安心して学校生活を送ることができる。

実施のポイント

対象生徒に使用方法をきちんと理解させる。なるべく多くの時間同じ生徒が使えるように、使用生徒・使用時間を校内で共有する。授業だけでなく行事や面談などにも活用する。



ことバル



c-1
多様性
(苦手克服)

SBSルームの方針

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒 教室に入ることができない生徒 集団の中に居づらい生徒

ねらい 誰一人取り残さない居場所づくり、不登校対策・支援

アクション説明

教室に入ることができない、集団の中に居続けることが辛い生徒が、自分のペースで自分の課題に合った活動を行えるようにする。

実践方法

・自分のペースで自分の課題に合った活動ができる。例: オンライン授業、自習、読書、相談、クールダウン、気分転換(会話、コミュニケーションゲーム)等である。

得られる効果

SBSの理念(Step By StepとStand By Student)に基づき、「何もさせない勇気」「教室復帰の圧をかけない気遣い」を教員間で共有することで、生徒が教室や家庭以外で社会との関わりを持つ第一歩を踏み出すことができる。

実施のポイント

生徒にとって、家庭でも教室でもない第3の「居場所」とする。目標は個々の生徒によるため、一律に教室復帰をめざさない。各種ボランティア、保護者、地域(児童館等)・SC等と連携した持続可能な運営体制を構築する。

SBS ルーム

SBS ルームとは？

教室や集団の中で生活することが困難な時に、自分のペースで自分の課題に合った活動ができる場所です。SBSとはStep By Step(一歩ずつ・少しずつ)の意味があります。誰でも悩みや辛いことはあります。そんな時でもStep By Step(一歩ずつ・少しずつ)で自分のペースで課題に向き合い前に進んでほしいという思いで開設されました。
例) オンライン授業、自習、読書、相談、クールダウン、気分転換(会話、コミュニケーションゲーム)等

日程・時間

	月	火	水	木	金
開室	○	○	○	○	○
スタッフ	地域ボランティア(保護者、児童館職員等)、学習支援員、SC等				

※行事、定期考査、長期休業中も開室予定。開室できないこともある。

場所

1階SBSルーム(大、小)、PC室、図書室、武道場
※SBS利用人数が多い場合は、PC室や図書室の利用することもある。運動で武道場を利用することもある。

「利用してみたい!」「気になる!」と思ったら、担任の先生または伝えやすい先生に相談してください。

SBS



標準服 選択制

e-1
多様性
(価値順応)

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒 自分に取って最も快適と感じる服装を自ら選択できる

ねらい 服装の面で性の多様性や個性を尊重する

アクション説明

標準服をAタイプ・Bタイプ(夏服・冬服)を男女関係なく選択できる。これにより、性の多様性や個人の主体性を尊重する。

実践方法

- ・一年中、Aタイプ・Bタイプの夏服・冬服の中から自分に合った標準服を選択する。
- ・夏服オプションとして5月～10月の間、ポロシャツ・標準服ハーフパンツの着用を認める。

得られる効果

生徒によって様々な考え方、性自認等があるという前提に立ち、個に応じて自分に合った標準服を選択できることによって、性の多様性を担保し、安心安全に学校生活を送ることができる。

実施のポイント

標準服の選択は自由だが、着こなしは中学生らしい、清潔感のある、学習の場にふさわしい着方を意識させる。



標準服



校則一本化

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒

多様な価値観を高めたい生徒 自律的な行動を身に付ける必要のある生徒

ねらい

多様な価値観がある時代に合わせて、人権に配慮をし、生徒の自律を促す

アクション説明

令和元年度から時代にそぐわない細則を撤廃し、校則を「Be Gentleman～ 紳士であれ～」に一本化する。「あじみこし」(あいさつ、時間、身だしなみ、言葉遣い、姿勢)を基に自律を促し、全生徒の安心安全が保障された中での学びを追求する。

実践方法

・「Be Gentleman～ 紳士であれ～」を基に、誰もが安心安全で快適に過ごすために必要な「あじみこし」(あいさつ、時間、身だしなみ、言葉遣い、姿勢)を自ら考え、学びを追求する。

得られる効果

時代や多様な価値観にそぐわない細かな校則を撤廃し、誰もが快適な集団生活を送るために必要なことを各個人が考えながら生活することで自律を図り、誰もが安心安全に学校生活を送ることができる。

実施のポイント

義務教育最終段階として、社会に出ていくために必要なルールやマナーを育ませる視点を持ち、「あじみこし」について自分たちで考えさせ、諭し、自律を促す。

【校 則】 Be Gentleman 紳士であれ

アメリカの教育者・クラーク博士が、1876年(明治9)、開校したばかりの札幌農学校(現在の北海道大学)に初代教頭として着任した際、「規則で人間をつくることはできない。この学校に、校則はたった一つあればいい。」と言って定めた校則。本校の校則という「紳士」とは、男女に関係なく、知性に富み、礼儀正しく、思いやりにあふれる人のこと。

【誰もが快適な学校生活を送るための留意点】

●社会に出ても必要とされる「あじみこし(挨拶・時間・身だしなみ・言葉遣い・姿勢)」について

挨拶

誰に対しても自分から気持ちよい挨拶をしましょう。

時間

集団生活において、時間は必ず守りましょう。

身だしなみ(髪型・服装等)

清潔感ある身だしなみ、学習の場にふさわしい身だしなみ、安心・安全を最優先した身だしなみをしましょう。

言葉遣い

時や場所や相手に応じた言葉遣い、美しい言葉遣い、人の心を温めるような言葉遣いをしましょう。

姿勢

授業中や食事中、人の話を聞くときなど、時や場所や相手に応じた正しい姿勢をとりましょう。

校則と留意点

オンライン朝礼

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒 集団になじめない生徒 耳からの情報理解が不得手な生徒

ねらい 集団になじめない生徒や視覚優位の生徒への配慮

アクション説明

朝礼をオンライン化し、校長講話を印刷物として全員に配布する。これにより、集団になじめない生徒の負担を軽減し、聴覚からの情報理解が不得手な生徒にも内容を保障する。

実践方法

- ・各教室で職員室ClassroomのMeetに接続し、電子黒板で映し出す。校長が事前に配布している校長通信を基に講話する。

得られる効果

従来の体育館から教室での朝礼に変えることで、集団になじめない生徒の苦痛を軽減し、視覚優位の生徒の理解が向上する。

実施のポイント

視覚優位の生徒のために、必ず校長通信を配り、見ながら話を聞かせる。校長通信に記載のない話は顔を上げて電子黒板を見て話を聞かせる。教室前に設置してある電子黒板に接続して実施するため、見えづらい場合は机の向きや電子黒板の位置を変える。



関係諸機関一覧の全体共有

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒 学校内だけでは解決が難しい課題を抱えている生徒

ねらい 生徒支援の連携体制を強化する

アクション説明

関係諸機関一覧を校区マップで共有し、チーム学校構築に向けた校内研修を実施した。また、これらの機関をつなぐSSW(スクールソーシャルワーカー)を含めた連携のあり方のモデルも学ぶ。

実践方法

- ・校内研修会で全教員に周知する。

得られる効果

地域の関係諸機関(医療、福祉、警察、教育相談など)の位置と役割を全教職員が視覚的に把握できるため、生徒が支援を必要とした際に、最も迅速かつ適切な機関へ連携する判断が可能となる。関係諸機関をつなぐSSWとの連携促進にもつながる。

実施のポイント

全教員が理解できるように周知する。一覧を作成し、全教員がいつでも確認できるようにする。

板橋区における関係機関等

スクールカウンセラー (SC)	板橋フレンドセンター
スクールソーシャルワーカー (SSW)	東京都教育相談センター
スクールロイヤー	フリースクール
特別支援教育や学習指導に関わる主な人材	まなぼと (生涯学習センター)
民生委員・児童委員	i-youth【アイユース】中高生若者支援施設
子ども家庭総合支援センター (児童相談所)	学びのプレイス (中高生勉強支援事業)
東京法務少年支援センター	板橋区コミュニティ・スクール
少年センター	学校支援地域本部
保護司	地域若者サポートステーション (サポステ)
板橋区要保護児童対策地域協議会	校内委員会
警察署 生活安全課少年係	学校いじめ対策委員会
板橋区子ども発達支援センター	学校サポートチーム
心身障害児総合医療療育センター	家庭教育支援チーム
板橋区教育支援センター	

[関係諸機関一覧](#)



f-1
保護者
対応

another保護者会

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒 不登校の状態にある、またはその傾向にある生徒

ねらい 学校・福祉関係者・保護者同士のネットワークを構築する

アクション説明

学校や教室に居づらさを感じる生徒の保護者を対象とした保護者会を開催する。福祉関係者としてSSW(スクールソーシャルワーカー)も参加を依頼し、学校と福祉関係者を交えたネットワークを構築する。

実践方法

- ・各学年で対象保護者を選定する。
- ・案内を作成し、郵送または電話で説明する。
- ・学校全体の保護者会とは別日に設定し、実施する。
- ・内容はアンケート実施、現状共有、悩みの共有、ネットワーク構築である。

得られる効果

学校や教室に居づらさを感じる生徒の保護者を対象に、板橋区や学校の不登校対策、集団適応策、進路選択について説明し、保護者の困り感の改善に向けて、学校・福祉関係者・保護者同士の支援体制を構築することができる。

実施のポイント

案内や説明を個別に行い、参加確認を丁寧に行う。保護者の困り感を保護者会の場で把握(会の中でアンケートを実施)し、共有を図る。学校から情報が送られる、すぐ一斉送信メッセージグループに参加を促す。

令和7年7月

年 組 _____ さんの保護者様

板橋区立板橋第三中学校
校長 武田 幸雄

another保護者会の開催について

向暑の候、皆様におかれては益々ご清祥のことと拝察申し上げます。
さて、標記の件につきまして、本校ではDSTP(誰1人生徒を取り残さないプロジェクト)の視点に立ち、「学校や教室に居づらさを感じる生徒」の保護者の皆様を対象とした「another保護者会」を開催することといたしました。anotherは(もう1つの)という意味です。
出欠席は裏面のQRコードを読み取り、7月14日までにご回答ください。それ以降は、学校より電話連絡で確認させていただきます。

記

1. 日 時 令和7年7月18日(金) 午後2時30分～
2. 場 所 本校1階多目的室(SBSルーム)
3. 対象保護者 ①学校や教室に居づらさを感じる生徒の保護者
②諸事情により欠席日数の多い生徒の保護者
③フレンド教室等、外部機関に通う生徒の保護者
④お子さんの登校状況に不安を感じられている保護者
4. 主 な 内 容 ①昨年度の進路選択の体験談(SBSスタッフより)
②学校の不登校対策や集団適応策の説明
③学校とご家庭とのネットワーク構築
④学校とご家庭、ご家庭どうしの情報交換

なお、板橋区教育支援センターの主催する「高校個別相談会」のチラシも、同封いたしました(今回の保護者会とは無関係です)。



生徒実態調査

対象生徒

学校または家庭で潜在的な課題を抱える生徒／個別支援を必要とする生徒

ねらい

生徒の见えない実態を把握し、指導支援に生かす

アクション説明

学期末に生活実態について生徒にアンケートをとり、その変容を見取り、生活面や学習面の向上につなげる。生徒実態調査を定期的の実施し、生徒の学習および学校内外の生活におけるつまずきや苦手感をデータとして把握する。

実践方法

- ・学校として生徒を誰一人取り残さないために聞きたい項目を抽出する。
- ・フォームでアンケートを作成し、学年ごとにアンケート調査を実施する。
- ・結果を一覧にし、課題のある生徒を見える化して、学校内で共有する。

得られる効果

生徒の见えない学校内外でのつまずきや苦手感を把握し、指導に生かすことができる。指導改善につなげることで、個に応じたより満足度の高い、質の高い教育を進めることができる。「個」のニーズに基づいた改善が可能となり、結果としてより満足度の高い、質の高い教育を生徒に提供することができる。

実施のポイント

アンケート内容がプライバシーに関わる可能性があるため、組織的に内容の検討を行う。気になる生徒には、担当者から学年、担任に報告する。

		桜三中学の学級運営委員会 会長、部長様について、 自分たちの学生生活を より良くするために 見を言うなど、積極的に 参加できる	桜三中では、悩みや困難 などあるととに達達な （悩まずにとがでる）を 先生や仲間達といがる と感じる	桜三中では、各教科で一 人一人応じた学習指導 アドバイスが示されている	授業中、難しい、つづ いては不安定なことが 多くなる	自分にはいいところがある	将来の夢や目標を しっかりと前に進 む
1	7年生	2.少しできる	2.少し感じる	1.示されている	2.あまりない	1.ある	1.前向きである
2	7年生	1.できる	3.あまり感じない	3.あまり示されていない	3.ややある	2.少しある	2.少し前向きである
3	7年生	1.できる	1.感じる	1.示されている	1.ある	1.ある	1.前向きである
4	7年生	1.できる	2.少し感じる	1.示されている	3.ややある	1.ある	1.前向きである
5	7年生	1.できる	1.感じる	1.示されている	2.あまりない	1.ある	1.前向きである
6	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	1.ある	1.ある	2.少し前向きである
7	7年生	1.できる	1.感じる	3.あまり示されていない	3.ややある	1.ある	1.前向きである
8	7年生	2.少しできる	2.少し感じる	2.少し示されている	3.ややある	1.ある	1.前向きである
9	7年生	1.できる	4.そう感じない	1.示されている	3.ややある	3.あまりない	3.あまり前向きでない
10	7年生	3.あまり思っていない	4.そう感じない	1.示されている	3.ややある	3.あまりない	3.あまり前向きでない
11	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	1.ない	1.ある	1.前向きである
12	7年生	2.少しできる	1.感じる	2.少し示されている	2.あまりない	2.少しある	1.前向きである
13	7年生	2.少しできる	2.少し感じる	2.少し示されている	3.ややある	4.ほとんどない	3.あまり前向きでない
14	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	1.ない	2.少しある	1.前向きである
15	7年生	3.あまり思っていない	2.少し感じる	2.少し示されている	3.ややある	1.ある	1.前向きである
16	7年生	2.少しできる	2.少し感じる	2.少し示されている	3.ややある	2.少しある	3.あまり前向きでない
17	7年生	2.少しできる	1.感じる	2.少し示されている	3.ややある	2.少しある	2.少し前向きである
18	7年生	1.できる	1.感じる	2.少し示されている	2.あまりない	1.ある	1.前向きである
19	7年生	3.あまり思っていない	3.あまり感じない	2.少し示されている	3.ややある	1.ある	1.前向きである
20	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	1.ない	1.ある	2.少し前向きである
21	7年生	1.できる	1.感じる	2.少し示されている	1.ない	1.ある	1.前向きである
22	7年生	1.できる	3.あまり思っていない	3.あまり思っていない	1.ない	1.ある	4.前向きでない
23	7年生	1.できる	3.あまり思っていない	1.思っている	2.あまりない	1.ある	1.前向きである
24	7年生	1.できる	1.感じる	1.示されている	4.かながある	1.ある	1.前向きである
25	7年生	1.できる	3.あまり思っていない	3.あまり思っていない	1.ない	1.ある	1.前向きである
26	7年生	1.できる	1.感じる	1.示されている	3.ややある	2.少しある	2.少し前向きである
27	7年生	2.少しできる	1.感じる	3.あまり思っていない	2.あまりない	1.ある	1.前向きである
28	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	1.ない	1.ある	2.少し前向きである
29	7年生	1.できる	3.あまり思っていない	3.あまり思っていない	3.ややある	1.ある	1.前向きである
30	7年生	2.少しできる	1.感じる	2.少し示されている	1.ない	1.ある	3.あまり前向きでない
31	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	2.あまりない	1.ある	2.少し前向きである
32	7年生	2.少しできる	1.感じる	2.少し示されている	1.ない	1.ある	3.あまり前向きでない
33	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	2.あまりない	1.ある	2.少し前向きである
34	7年生	1.できる	3.あまり思っていない	3.あまり思っていない	3.ややある	1.ある	1.前向きである
35	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	1.ない	2.少しある	2.少し前向きである
36	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	2.あまりない	1.ある	2.少し前向きである
37	7年生	2.少しできる	1.感じる	2.少し示されている	1.ない	1.ある	3.あまり前向きでない
38	7年生	2.少しできる	1.感じる	1.示されている	2.あまりない	1.ある	2.少し前向きである
39	7年生	1.できる	3.あまり思っていない	3.あまり思っていない	3.ややある	1.ある	1.前向きである
40	7年生	1.できる	1.感じる	1.示されている	2.あまりない	1.ある	1.前向きである



f-2
保護者
対応

オンライン三者面談 ハイブリッド保護者会

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒 家庭の事情で保護者の来校が困難な生徒／家から出られないなど個別支援が必要な生徒

ねらい 保護者の方が、学校外でもオンラインで三者面談や保護者会などの教育活動に参加できる

アクション説明

学校外でもオンラインを活用した三者面談や保護者会などの教育活動に参加できる。三者面談のオンライン実施と保護者会のハイブリッド開催により、保護者の参加負担を軽減する。

実践方法

- ・保護者に案内を出し、参加方法を選択してもらう。
- ・当日Meetを立ち上げ、オンラインで参加希望の保護者が参加できるようにする。

得られる効果

場所や時間など、保護者の負担を軽減し、学校の教育活動への参加機会の選択肢を用意することで、学校の教育活動への理解と協力を一層促すことができる。保護者の学校教育活動への理解と協力を促進する。(注:実際の保護者会では約半数がオンラインで参加している実績がある。)

実施のポイント

保護者が個人のデバイスから参加できるようにマニュアルを作成する。全学級で配信漏れがないように、サポート体制を築いておく。



9年0組・三者面談日程調整フォーム

予定編成の都合上、7月15日(木)までに回答ください。

なお、面談時間は15分程度を予定しております。



不登校保護者ネットワーク

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒 不登校の状態にある生徒／個別支援を継続的に必要とする生徒

ねらい 保護者間の連携と支援を維持・強化する

アクション説明

学校や教室に居づらさを感じる生徒の保護者を対象としたネットワークを、学校と家庭、地域をつなぐ教育現場向けの連絡システムを活用し構築する。定期的に学校側から有益な情報を定期的に発信する。

実践方法

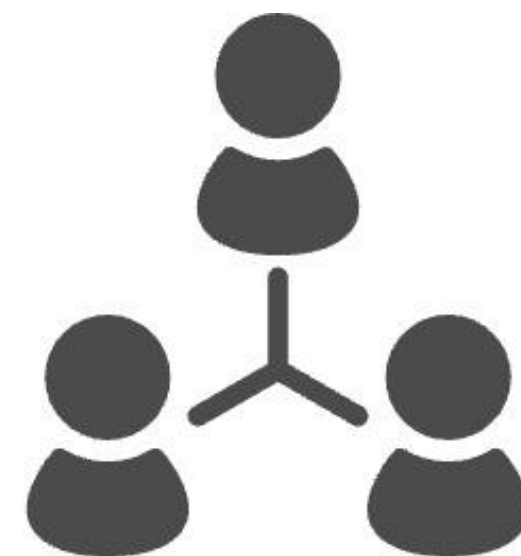
- ・不登校保護者会に参加された方に、不登校保護者用の連絡システム「すぐーる」に登録してもらう。
- ・月に1回程度、講演会や相談会の案内等の有益な情報を配信する。

得られる効果

学校や教室に居づらさを感じる生徒の保護者を対象に、板橋区や学校の不登校対策、集団適応策、進路選択について説明し、保護者の困り感の改善に向けて、学校・福祉・保護者同士の支援体制を構築することができる。

実施のポイント

不登校保護者会の際に、連絡システム「すぐーる」の登録を一緒に実施し、その場で登録してもらう。有益な情報があれば教員間で共有し、管理職から定期的に配信する。



教材費の保護者負担軽減

授業
支援

教室外
支援

生活
支援

対象生徒 家計に配慮が必要な生徒／全ての生徒

ねらい 副教材の購入を必要最低限に抑えることで、保護者の方の家庭の負担軽減を図る

アクション説明

全教員で私費教材を見直し、保護者の経済的負担を軽減する。教材を選定する際は、その費用と効果を明確にし、最終的には管理職が決済を下す仕組みとする。

実践方法

- ・教科で選定を行う。
- ・管理職に相談する。
- ・管理職が最終決定を行う。

得られる効果

いかなる家庭を取り残すことなく、質の高い公教育を提供することができる。全教員での協働を通じて教育活動の質を高める。学校と保護者の信頼関係を強化する。

実施のポイント

教科だけの努力では難しいため、選定のポイント(費用対効果が高いもの)を共有し、管理職と相談して決定する。

相談

